

HOSH~hold out hope~

<https://toyono-jinjikyo.com/>

3

令和元年度（2019年度）

5年経験者研修 児童生徒理解研修
(中堅教諭等資質向上研修)

第3回の5年経験者研修は、大阪多様性教育ネットワーク共同代表の沖本和子先生にご講義いただきました。タイトルは、「多様なもちあじが活きる学校づくり ~安心の中で確かなつながりを~」でした。

多様な子どもたちがいる中で、それぞれの違いを間違いにしたり、優劣をつけたりするのではなく、豊かなもの「もちあじ」として捉え、尊重していく。そのためにも子どもたちが安心して過ごせる学級・学校にするためにはどうしていくかということについて教えていただきました。

また、様々なワークを通して「普通」「当たり前」とは何かということについて考えることが何度もありました。自分にとっての「普通」や「当たり前」は他の人にとっては決してそうではなく、知らず知らずのうちに押し付けてしまっていなかったか等、普段の自分の姿を見つめる機会にもなりました。

多くの受講者がこれまでの自身を振り返るだけでなく、学校全体としてどう取り組むべきかと視野を広げ、日々、子どもたちに向き合っており、5年を経験した成長と、校内でも中心的な立場になってきたからこそその自覚を誇らしく実感しました。

~ 振り返りシートより ~

もちあじのワークをしている時、同じグループだった方たちがうなずいたり、ほほえんだりしてくれて、とても安心できました。「安心の約束」「お・へ・そ」の大切さを実感しました。自分のクラスでも友だちの発言に対して否定的な反応をする場面があるので、「みんなが安心できる教室」をつくっていかなければいけないと再確認できました。

児童生徒理解をテーマとした研修はこれまでたくさん受けてきたので、日々、意識しながら子どもたちと接していますが、子どもたちが互いに理解し合い、つながっていけるような活動はあまりしてこなかったように思います。「もちあじ」についてのワークシートを記入した時、私自身、自分を表現すること、伝えることの難しさを感じたので、自分を開示できず、しんどい思いをしている子は自分が思う以上にいるかもしれません。そんな子どもたちが安心して楽しみながら自分を出していけるような活動をもっと取り入れていこうと思います。

もちあじのワークではあらためて自分という人間を見つめ、振り返ることができました。また、それを開示してみたり、してもらったりすることで、初めて話す人ともつながれることを体験しました。ただ、それを実践するには「安心の約束」が土台にあることが大切だとも感じました。

一人ひとりにとって安心の形が違う中で、安心できるクラスづくりをするのは簡単なことではありませんが、目の前の子どもたちと共に考え続けたいと思います。本当にいろいろなもちあじ、考え方の子がいるという視点を大事にしたいです。

ネズミの話が印象的でした。確かに前に立つ人がうそを言うわけがないと思いました。だから、教師の影響力は大きいのだろうと実感しました。話し方、話す内容など、考えて行動しないといけないと思いました。

自分の学級の子どもたち一人ひとりの顔を思い浮かべながら、その子のもちあじについて考えながら聞いていました。「あの子のあの言動はたくさんあるもちあじの一つなんだ」と考えると、声かけや援助が変わってくるなと思いました。一人ひとりが安心だと思える学級づくりができているか、もう一度、振り返りながら支援していこうと思います。

自分の学級だけではなく、5年目なのだから大きな枠組みで考えなければならないという講義のはじめの言葉から考えさせられました。3年目からずっと後輩と学年を組んできましたが、果たして私は自分の学級だけでなく、隣のクラス、学年全体、学校全体のことを考えてきたのか、改めて考え直すきっかけとなりました。

豊能地区で実施している法定研修は、豊能地区の教育を担う先生方への願いや期待を形にしたものです。次の法定研修は、10年経験者研修となります。先生方の益々の活躍をお祈りし、次回、10年研でお会いできることを楽しみにしています。